【会議名：第４回糸魚川市ごみ処理基本構想検討委員会】

会　議　録

作成日　平成 25 年 12 月 2 日

日	平成 25 年 11 月 30 日(土)	時間	10：00～12：00	場所	市役所 201.202 会議室
件名	議　　題　・再生事業または安定化事業における検討について				
出席者	【出席者】　１１人 姫野委員、織田委員、足立委員、池田委員、大月委員、北村委員、栗原委員、苫屋委員、 土居委員、廣川委員、保坂委員 【欠席者】　４人 岩崎委員、小田嶋委員、宮脇委員、山本委員 【事務局】 吉岡市民部長、渡辺課長、伊藤センター長、中村補佐、渡辺補佐、高野係長 福光主査、橋場主査 一般財団法人日本環境衛生センター				
	傍聴者定員	人	傍聴者数	８人	

会議要旨

１　開会

２　委員長あいさつ

より深い審議をいただくとともに、議論の収束に向けた活発な審議と円滑な議事進行にご協力を願いたい。

３　議事

≪前回資料内容の確認≫

【委　員】当初地元への説明では、浸出水調整槽、浸出水処理施設、防災調整池が必要であるとの説明であった。しかし、第 3 回検討委員会以前における地元区長への回答では「詳細設計における検討の結果、十分な流下能力があり設置の必要がないとの結論からその後の計画から除外している。」とのことであった。

その後、前回会議資料№3 において、平成 26 年度に洪水調整池（防災調整池）を設置予定の旨説明があったものであり、このような行政対応等の整理が必要であり、どのように釈明、解明するのか発言願いたい。

【事務局】当初の適正化報告書の解釈としては、開発行為等に伴う河川流域の流出量が増大した場合には、調整池が必要となるということである。

【事務局】当初地元に対して調整池について説明した。その後その他の施設整備により調整池設置の必要がないとの見解となったが、その時点で地元にご報告をせず現在に至ったことがある。浸出水調整槽の完成により水量の調整能力は確保されるものである。

地元からの要望を伺う中で調整を行ってきたが、現段階では、観察池というような安全性を確認できるような施設を検討中である。

【委　員】先回資料の訂正をすべきではないか。

【事務局】観察池を設置予定であるとご理解いただき、表記等について変更をさせていただきたい。平成 26 年度に発注し完成を目指したい。

【委　員】観察池に入る水質、地元への説明の時期はいつになるか。

【事務局】水処理施設完成（高度処理）後の水及び、側から流れ込む水が入り水生植物等が観察できる施設を計画している。水処理施設の概要説明と併せて早い時期に説明させていただきたい。

・再生事業または安定化事業における検討について　資料№.１

これまでの議論及び委員からの意見等について整理した資料に基づき、事務局より説明

≪主な質疑・意見≫

【委　員】当初地元での説明で、現処分場は幸いにも粘土層があることで水銀が外に出ることはないと聞いている。そうであれば、下層の土砂部分を処理する必要がなくなることで成分割合が変わってくるのではないか。ボーリングコア内の水銀分布はどうなっているのか。

【事務局】ボーリングコアの成分分析は、廃棄物層のみを対象として分析したものであり、土砂は含んでいない。

【委　員】土砂を入れるともっと比率が上がる。

【委　員】どれくらいの層で土砂内で水銀が吸着されていると考えられるか。

【事務局】水銀の溶出はほとんどなく、廃棄物層内に残存されると想定される。下層の土砂への吸着はないと考えられる。

【委　員】空中の水銀量が世界的に問題になってきていると聞いた。処分場のガス抜管からどれくらい水銀が出てきているのかも調べてほしい。

【事務局】前回資料№.2において、水銀の地上１ｍでの推定最大発生量：0.204ng/㎥と試算している。ほとんど外に出てこない、検出しにくい量と考えていただきたい。

【委　員】あることはあるが、数字からみると一般的に環境や健康に影響がある数値ではないとみえる。

【委　員】安定化し閉鎖した場合、行政は処分場の跡地利用をどう考えているのか。水銀が飛散する状況を追跡調査するため、動植物を飼育して食物連鎖から蓄積される水銀を調査するような実例はないか。

【委　員】環境基準値自体が、様々な条件を十分考慮した上での値（環境基準に準じる健康リスクの低減を図るための指針値：40ng/㎥）であり、本処分場ではそれよりも薄い水銀量であると推定されている。

【事務局】現処分場は非常に薄い水銀量で、健康被害等考えることが困難であるといえる。実例は把握していない。

一般的な処分場の跡地利用としては農地や山林にしている。当該処分場については今後の調整となっている。

【委　員】今後の協議の中で、選択肢として提示いただくことで比較検討できるのではないか。

【委　員】前回、再生事業を含めた焼却施設、リサイクル、最終処分のあり方等を総合的に検討するべきとの発言に対し、庁内でも検討すると回答があったが、その結果を伺いたい。

【事務局】本検討委員会での検討事項、地元や市議会からの賛同等調整していきたい。ごみ処理全体を見通しながら最終的な合意をいただきたい。現時点ではその途中段階であり、12 月に

は地元に説明に伺う予定である。

【委　員】県による津波の規制が、焼却場では 5mから 9mに変更されたと聞いたが、現清掃センターの海抜は何mか。

【事務局】現清掃センター3 階事務室が 10m程度と認識している。
県による津波の想定については、一時は 5m程度との発表があったが、現在再計算中であり現時点で結果は出ていない。来年度以降発表される予定である。結果を受けて市で防災計画を検討することになる。

【委　員】最終処分場に隣接する市有地（粘土山）の面積と土砂量はどれくらいか。

【事務局】今は資料が手元にない。後日回答する。

【委　員】津波による公共施設の立地条件や粘土山の条件、焼却施設の更新時期等の条件が出揃ってきた。12 月に地元に来る際には行政としてある程度の方向性をいただけると期待している。

【事務局】本日の検討委員会の結果を受け、議会との協議等含め最終的な政治判断をさせていただく予定である。

【委　員】一般的なごみ処理施設建設において、行政が一方的に建設地を設定すると後々問題が生じることがある。用地選定委員会のような会を設け、一定の条件を提示する中で各地区から提案を受けるような方法が無難なやり方ではないか。本市の場合も更新時期まで時間的余裕があるわけではなく、市民の皆さんから広く意見をいただきながら用地を選定していった方がよい。

【事務局】地元区から最終処分場に隣接する市有地について提案をいただいており、その点も踏まえて用地の検討をさせていただきたい。

【委　員】今後資料作成、発言等地元への対応に対し慎重に取り扱いを願いたい。

【事務局】構想段階では、造成事業においては防災調整池等が必要であろうと説明した。その後詳細に検討を重ねた上で基本設計段階では調整池はいらないとなったものである。今回観察池を設けて、安全安心を確認していただこうというのが趣旨であり、洪水に対する調整機能は備えていない。下流の水路が広いため水量の調整機能は必要がないことを確認いただきたい。

【委員長】構想段階と詳細設計段階は同一ではなく、検討を重ねることでステップアップし十分な能力があるとわかったということである。本委員会における構想においても、数年後に様々な条件で変更となり得るものである。構想はある時点で決めなければならないものであり、検討を重ねていく上で精度が上がっていき、最新時点が正しいと解釈するしかない。

【委　員】今後、行政側から積極的な情報提供をいただきたい。

【委員長】構想としては、安全性や経済性を再確認することも重要と考える。

【委　員】現最終処分場に隣接する市有地に焼却施設を建設するなど工夫の余地はある。行政側から前向きに検討をいただきたい。経済性ももっと検討工夫できるかもしれない。

【委　員】行政として技術革新を見越した経費の算出はできないのではないか。現時点でできる技術で判断するしかないのではないか。

【事務局】焼却・溶融に係る施設までの運搬に対する経費は試算に含めていない。現最終処分場で掘り起こし選別し、敷地内下流の新規最終処分場に残渣を運搬すると仮定した試算である。

焼却施設の立地場所によって試算数値は変わらない。

【委　員】あり方検討委員会において 53ｔ／日を決めるにあたって、現清掃センターの敷地内で建設するとする想定ではなかったか。

【事務局】あり方検討委員会での処理方式の検討において、プラントメーカーへ経費等ヒアリングするにあたり、その条件を、同一場所で、53ｔ／日と推計仮定し各社へ提示したものである。

【委　員】周辺の地すべりを誘発する可能性、遮水機能が損なわれる可能性について注意いただきたい。今は安定しているが、それでも砂防堰堤は移動している。その場所で工事をするということは、それだけで悪い動きをするかもしれない。水銀を動かすことでのリスクもあるが、それ以前に今の地山に触ることのリスクを念頭においていただきたい。

【委　員】現状では雨水が側溝に流れているが、掘り起こすとなった場合には、一挙に処分場内に流れ込み汚水となって流出してくることとなる。調整槽の規模や水処理能力が足らなくなるはずである。経費的には今の試算では済まない。

掘り起こすことで処分場内をかく乱することになり、汚染物が急激に流出するリスクが想定される。

【委員長】経済性の資料においては、技術革新の可能性もあるが、工事内容の変更等に伴う工事費全体については想定していないため、より高くなると想定される。

【委　員】リスクが大きいことが議論されているが、そうであるならば、選択肢として、処分場の跡地利用の例を提示いただきたい。

【事務局】他地域の事例の紹介はできる。現処分場の地形や面積、公共施設整備のあり方等踏まえて今後地元と検討させていただきたい。

【委　員】全国的に高度利用は難しい。構造物を建てるために遮水層に杭を打つことになってしまう。農地利用やグランド等が多いのが一般的である。

【委　員】どうしても土地がなく処分場を利用するという考え方はあるかもしれないが、処分場の跡地を何かのために使うという考え方はないのではないか。基礎がいるようなものを処分場跡地につくることは基本的に違うと考える。適材適所で自然に返すことでよろしいのではないか。

【委　員】これだけリスクが大きいのであれば、跡地利用の良い実例等を見せていただければが地元の皆さんからも理解いただけるのではないか。

【委　員】糸魚川市のように掘り起こしをして対応している事例はないか。

【委　員】糸魚川市のように急峻な最終処分場での事例はないのではないか。

・その他

【委　員】迅速な会議資料の提示、内容の精査を願いたい。

【事務局】今後、会議資料を１週間程度を目途にお渡しさせていただくとともに、会議議事録も確認が済み次第お渡しさせていただく。内容についてもお詫びし精査させていただく。

【事務局】年が明けてからもう一度開催させていただきたく、正副委員長で日程調整させていただき案内をさせていただく。

【委　員】次回の開催で委員会は解散となるのか。

【事務局】今年度中に協議が詰め切らないようであれば次年度にずれ込むことも想定して、来年度末までとさせていただきたい。

4　閉会　織田副委員長

本検討委員会で議論をいただき、市として一定の方針を定めたい。地元や議会からの意向、賛同を受けた上で事業の実施にあたっていかなければならない。

大野区の安全安心をどうするかの観点から方向性を検討していきたいと考えている。